

パッケージツアーからみた九州観光の特性に関する基礎的研究

九州産業大学大学院 学生会員 ○神崎 宏一
九州産業大学工学部 正会員 辰巳 浩
筑紫緑地建設（株） 非会員 榎木 将司

1. 研究の背景と目的

国内外から九州を訪れる観光客は、東京・京都などと比べるとその数は多くなく、近年その割合はさらに減少傾向にある。そのため、九州では観光振興のために、どのような施策を講じることが有効であるかを検討する必要に迫られている。

そこで本研究では、旅行会社が設定するパッケージツアーに着目し、その内容を分析することにより九州観光の実情を把握することを目的とする。なお本稿では、その対象を国内旅行のみとする。

2. データについて

本研究で取り扱うパッケージツアーは鉄道旅客協会に加盟する主要 13 社のものとする。データはインターネット上の各社のホームページから九州行きパックツアーの詳細をダウンロードすることにより収集した。その際、13 社中 6 社の九州行きツアーはフリープラン、もしくはゴルフツアーのみであったことから、残り 7 社を対象にデータ収集を行った。なお本研究で用いたデータのツアー時期は 7 月～9 月開催のものであり、サンプル数は 481 である。

データの作成は Excel を用いて行った。まずツアー属性・ツアー日程（1 日目～7 日目）・備考（九州外観光の詳細など）の大きく三つに分類した。ツアー属性は旅行会社・ツアータイトル・出発地・九州上陸地等の 13 項目。ツアー日程は訪問観光地数・観光地間の交通機関・移動途中での備考・観光地の 4 項目。備考は特定日に訪問観光地の変更がある場合や九州外の観光が含まれていたツアーの場合、その詳細を記入する欄とした。

3. KJ 法によるツアーキャッチフレーズの分類

表-1 はツアータイトルからキャッチフレーズとなる語句を抽出し、KJ 法により分類したものである。小

表-1 各ツアーのキャッチフレーズの分類

大分類	中分類	小分類
食 (9.24%)	グルメ (9.24%)	グルメ (9.24%)
泊 (34.61%)	宿泊 (34.61%)	温泉 (30.65%)
		旅館 (3.96%)
遊 (53.97%)	文化 (12.61%)	歴史 (7.62%)
		祭・地域行事 (4.40%)
	自然 (30.8%)	美術館・博物館 (0.59%)
		景勝自然 (22.14%)
		花公園 (1.61%)
		フルーツ狩り (3.23%)
		動物 (1.03%)
		登山・トレッキング・ウォーキング (2.79%)
		テーマパーク (5.72%)
	アミューズメント (6.89%)	公演 (1.17%)
		クルーズ (1.76%)
買 (2.20%)	土産 (2.20%)	乗り物 (1.91%)
		工場見学 (0.73%)
		ショッピング・お土産 (1.47%)

文類でみると温泉が最も多く、次に景勝自然、グルメと続く。中分類で見ると、宿泊・自然が多く、次に文化・グルメと続く。大分類では、遊・泊が多く、買は少数であることがわかる。このことから九州内の観光では買い物やアミューズメント関係のような人工的な要因よりも温泉や自然といった天然的な資源の方が九州の魅力と認識されているといえる。

4. 九州観光の特性

九州までの交通機関と九州出発時の交通機関を集計したものが図-1、九州への上陸地と出発地の分布について集計したものが図-2 である。

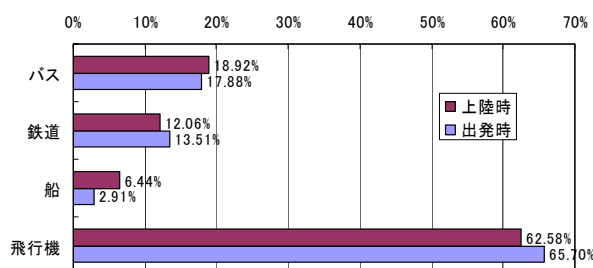


図-1 利用交通機関(九州上陸時・出発時)

キーワード：九州観光、パッケージツアー、ツアーキャッチフレーズ、旅程

連絡先：〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台 2-3-1・Tel 092-673-5593・Fax 092-673-5959

どちらのグラフに関しても上陸時と出発時のデータ間に大きな違いは見られない。図より、飛行機の割合が高いことがわかる。その上陸地としては福岡空港・鹿児島空港の利用が多い。

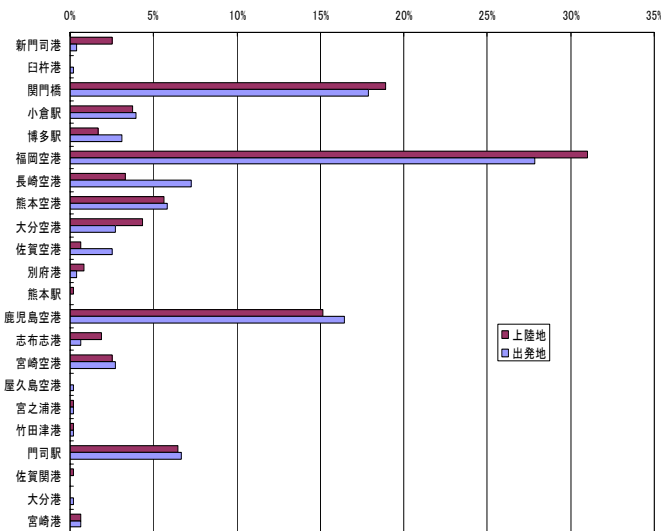


図-2 九州への上陸地と出発地

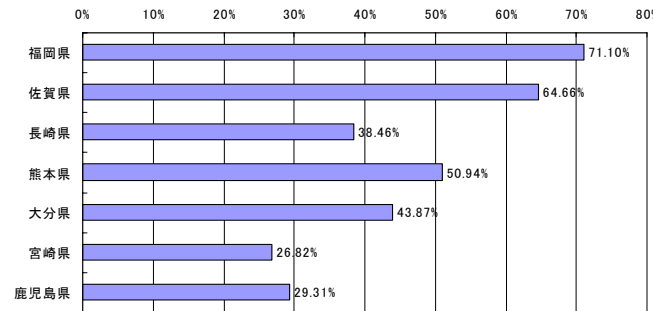


図-3 各県に立ち寄る確率（通過を含む）

また、バス利用のツアーの場合は関門橋を通して上陸しており、鉄道では門司駅の割合がたかいことから、JR 在来線の利用が多いといえる。

図-3 は各県にツアーが立ち寄る確率である。福岡県が多い理由として、上陸地・出発地としての選択率が高いことが挙げられ、また佐賀県が多い理由としては、福岡と各県を結ぶ九州自動車道が通過する鳥栖を有することが挙げられる。

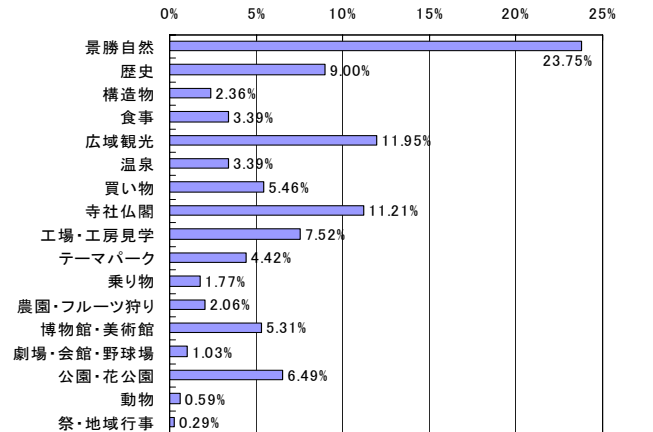


図-4 観光地の分類

図-4 はツアーの旅程に組み込まれている観光地をその性質により分類したものである。図から九州の観光資源としては景勝自然の割合が高いことがわかる。

表-2 観光地・宿泊地の立地数・延べ訪問数

地域	観光地		宿泊地	
	立地数	延べ訪問数	立地数	延べ訪問数
福岡県	70	266	5	16
佐賀県	51	226	6	21
長崎県	190	800	27	189
熊本県	100	774	18	112
大分県	88	769	10	164
宮崎県	54	489	6	53
鹿児島県	124	997	12	225

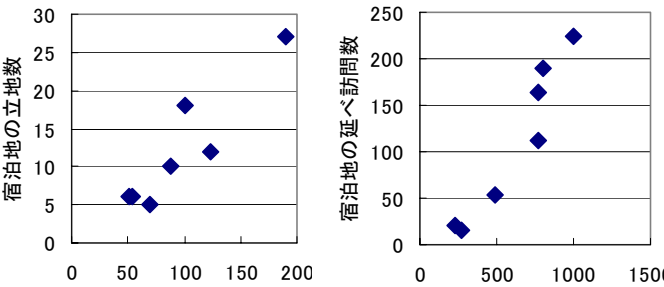


図-5 立地数

図-6 延べ訪問数

表-2 は観光地と宿泊地について、立地数と延べ訪問数を県別に集計したものである。この表から長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県の数が立地数・延べ訪問数ともに多いことから観光地として魅力があることもわかった。さらに図-3 の立ち寄る確率と延べ訪問数を比較すると、福岡県と佐賀県は前者が高いのに対し、後者が低いことから福岡県と佐賀県は観光客が通過している状況であることがわかった。

図-5、6 は観光地と宿泊地の立地数および延べ訪問数別に表したものである。このグラフから観光地と宿泊地の立地数・延べ訪問数がおおむね比例関係であることがわかった。

5. まとめ

本研究のまとめを以下に示す。

- ①九州観光の魅力は温泉と景勝自然であることを把握した。
- ②九州までのアクセスは飛行機が多く、九州内の移動はほとんどがバスであることがわかった。
- ③福岡県、佐賀県は立ち寄り確率が高いが通過が多く、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県は観光地としての魅力が高いことがわかった。
- ④観光地と宿泊地の延べ訪問数は比例関係にあることがわかった。

今後は観光地・宿泊地の詳細な空間分布分析、周遊経路のパターン分析を行い、さらにアジアからのツアーについても分析する予定である。